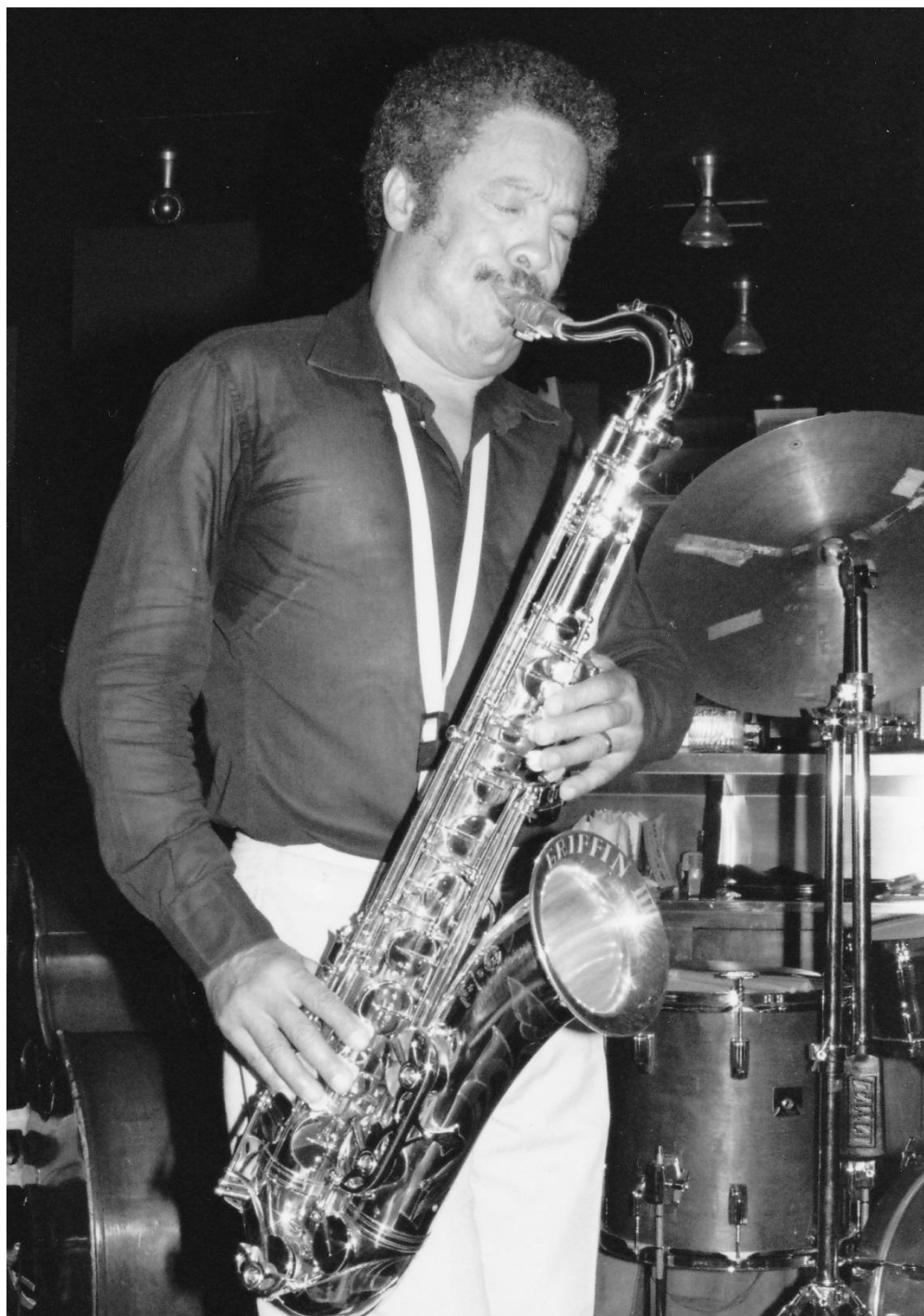


KJFC 2015/5/23 銀座ジャズカントリー例会

担当 北海道支部 JOANIE-S.T

ジョニー・グリフィン特集



Live at Shinjuku-Mokuba Photo by Y.Sakai©

John Arnold Griffin III (1928.4.24-2008.7.25)

ジョニー・グリフィンが 80 年の生涯を安住の地フランスで幕を閉じてから、早や 7 年が経ちました。身長 165cm、小柄なリトル・ジャイアントが辿ったその軌跡は、数多くのレコード・CD を通じて沢山のジャズファンに愛され、語り継がれています。

私とグリフィンの出逢いは 25 年ほど前、当時 90 年代初頭は CD の興隆期で、アナログレコードの発売がどんどん縮小していった時代でした。そんな中、東芝 EMI はブルーノートの番号順発売・キングは最後のアナログシリーズ・ワーナーからはアトランティック・ポリドールからはヴァーブの復刻等、レコード会社各社が LP はこれで終わりだ！の閉店企画を次々打ち出していて、それに踊らされた私は深く考えもせず、シリーズ全点の爆買いに勤んでおりました。

これらレコード会社の企画とは別にレコード販社 WAVE は、永らく廃盤となっていたリバーサイドやプレステージの渋い LP を、直接ファンタジー社に発注・制作をさせて国内盤として発売。そのまとめ買いの中に入っていた一枚「ケリー・ダンサーズ」との出会いが、グリフィンとの幸せな邂逅の始まりでした。

彼の哀愁に満ちた太い豪快な音色のテナーに魅せられ、コレクションを開始。ブルーノート・リバーサイドの諸作・ロックジョーとのテナーバトル・渡欧後のライブ盤・クラーク・ポーランド楽団のソロ音源等をひと通り集めては、悦に入る日々。いつかはグリフィンの特集をやりたいな！と云い続け、本日の企画も早々と名乗りを挙げてスタートはしました。取りあえずピックアップしたレコード盤は前・後編 2 回担当しても紹介しきれない程の分量。ここ数か月間、半分途方に暮れながらダンボール箱に集めたレコードを、矯めつ眇めつ眺めながら聞いておりました(笑) クラーク・ポーランドでいいソロをとっているのは外せないなあ、ポーランド・ムザ盤ライブやブラックライオンのシリーズも、女性シンガーの歌伴も結構揃っているし、最近の CD にもいいのがあるなあ～。あっ、モンクとのセッションも入れなければと、ひとりでもがいていたこの 3 月、名プロデューサーのオリン・キープニュース氏が 91 歳にて大往生の報を聞き、思い切って彼がプロデュースした作品の中のグリフィン、をメインに再構成してみることにして、やっと本日に至りました。

(本日おかけするアルバム 26 作品中 14 枚が O.K. 氏のプロデュースです。時間の関係で本編から漏れたレコード数枚は開始前及び休憩時間にお聞きかせします)

P・S 氏の訃報を聞くにつけ、リバーサイドの聖地だった・古庄紳二郎さんのお店・神保町グラウアーの閉店が悔やまれてなりませんね。でも流石キープニュース氏の人徳、来週 5 月 30 日・新宿 Dues にて古庄さんとゲストの DUG 中平さんが、氏を偲びリバーサイドを語る一夜限りのグラウアー復活企画<ユニオン主催>があるそうですよ！

1. Introducing Johnny Griffin (Blue Note BLP1533)

Johnny Griffin (ts) ・ Winton Kelly (p) ・
Curly Russell (b) ・ Max Roach (ds) 1956.4.17

A-1 Mil Dew (Griffin) 3:55

グリフィン 27 歳、満を持してと云うか貫禄さえ感じられるワンホーンの傑作アルバム。Argo 盤の録音日が不詳のため、ディスコグラフィー上はこのアルバムが初リーダー作品とされています。この時期、ブルーノート録音でのマックス・ローチ参加は珍しいですね。最近では色々な場面でBN1500 番台人気盤の一枚によく挙げられます。

2. J. G. tenor (Argo LP624)

Johnny Griffin (ts) ・ Junior Mance (p) ・
Wilbur Ware (b) ・ Buddy Smith (ds) 1956.

B-3 These Foolish Things (H.Link, E.Maschwitz, J.Strachey) 3:35

出身地シカゴのレーベル Argo への吹き込みもブルーノートと並行して企画されました。このレコードの初発ジャケットは通称カンガルージャケットと呼ばれ、真ん中から二つに割れてレコードを収納する変わり種。またお腹の袋にシングル盤のおまけが付いていたらしいとの風聞で、悪友N氏が必死に探しておりました。最近札幌例会の仲間 K.K ちゃんが入手した盤にシングル盤が残っていましたが、他のアーティストのプロモ盤で、グリフィンの別テイクが？と大騒ぎしていた我々、若干の肩すかしをくらいました。本日持参の私の盤は通常のシングル・ジャケットに変更されたもので、裂け易く不評だったカンガルーから、大変扱い易くなりました。(持たざるものの負け惜しみですが)

3. Johnny Griffin Vol.2 A Blowing Session (Blue Note BLP1559)

Johnny Griffin, Hank Mobley, John Coltrane(ts) ・ Lee Morgan (tp)
Wynton Kelly (p) ・ Paul Chambers (b) ・ Art Blakey (ds) 1957.4.6

A-1 The Way You Look Tonight (Kern, Fields) 9:38

K.Y.さんが KJFC 例会に参加されたきっかけは、2008 年1月私が銀座で担当した「L.Morgan & H.Mobley の共演を迎える」でしたね！ そのプログラムの中でもこの曲をおかけしましたが、最近音のいい盤を入手しましたので、再演させてください。グリフィンとモーガンの火花で、火傷しそうな演奏です。

4. Night in Tunisia (RCA Victor LPM-2654)

Johnny Griffin (ts) ・ Jackie McLean (as) ・ Bill Hardman (tp)
Sam Dockery (p) ・ Spanky DeBrest (b) ・ Art Blaley (ds) 1957.4.8

A-2 Off the Wall (Griffin) 7:12

グリフィンのジャズメツセンジャーズ在籍期間は短く、またJM自体モーガン加入前の過渡期扱いの57年ですが、グリフィンにマクリーンと云う強力フロントによるこのレコード、私の愛聴盤です。 異国情緒溢れるジャケットのイラストも、よく見るとブルーノート盤同タイトル(4049)のタイポグラフィージャケよりは手が込んでいます。

5. The Congregation (Blue Note BLP1580)

Johnny Griffin (ts) ・ Sonny Clark (p) ・
Paul Chambers (b) ・ Kenny Dennis (ds) 1957.10.23

B-3 It's You or No One (Styne, Cohn) 4:52

通称「アロハ」。鬼才アンディ・ウオーホールの数少ないレコードジャケット作品としても有名です。この上着はブルーノートデビューアルバムの写真と同じものですね。この作品を最後にグリフィンのブルーノートでのセッションは終わります。A. ライオンの趣味に合致しなくなったのでしょうか？実は wikipedia にはエンジニアのルディ・ヴァン・ゲルダーとの折り合いが悪かったとの未確認情報が記載されています。確かにグリフィンは此れまでのBN3作以前も、サボイのセッション等でRVGスタジオに出入りしていますが、このアロハセッション以降、ディスコグラフィー上でRVG録音を確認できるのは、60年・プレステージ盤ロックジョーとのバトルセッションと、随分後の83年・アップタウン盤フィリー・ジョーのダメロニア2作のみ。リバーサイドの専属時代と渡欧期間が長かったとは云え、あまりの少なさに、この噂の真偽の程は知りたいですね。

6. Johnny Griffin Sextet (Riverside RLP12-264)

Johnny Griffin (ts) ・ Donald Byrd (tp) ・ Pepper Adams (bs)
Kenny Drew (p) ・ Wilbur Ware (b) ・ Philly Joe Jones (ds) 1958.2.25

A-2 What's New (Burke, Haggart) 7:45 produced by Orrin Keepnews

リバーサイドのプロデューサー、オリン・キープニュースのお眼鏡にかなったグリフィンは '57.4 クラーク・テリーのアルバムにサイドメンとして参加したのを皮切りに、多くのセッションで頻りに登場し始めます。このリバーサイドでの初リーダーアルバムは3管フロント・若手オールスター集合の豪華なメンバーでの録音。でもこのアルバム、割と地味な印象を持つのは、グリフィンらしからぬ大人しめのジャケット写真のせいでしょうか？

7. Way Out! (Riverside RLP12-274)

Johnny Griffin (ts) • Kenny Drew (p) •

Wilbur Ware (b) • Philly Joe Jones (ds) 1958.2.26-27

B-3 Little John (J.Hines) 7:30 produced by Orrin Keepnews

前作 12-264 の翌日、同じリズムセクションと今度はワンホーンだけのリーダーアルバムが続けて吹き込まれました。幾何学模様の建物写真が印象的なこのアルバム、結構人気があります。

8. Blues for Dracula (Riverside RLP12-282)

Johnny Griffin (ts) • Nat Adderley (cornet) • Julian Priester (tb)

Tommy Flanagan (p) • Jimmy Garrison (b) • Philly Joe Jones (ds) 1958.9.17

B-1 Tune Up (M.Davis) 8:00 produced by Orrin Keepnews

フィリー・ジョーの初リーダーアルバム。ジャケットのデザインとA-1冒頭の怪奇風演奏で、やや際物扱いされていますが、その他の演奏は熱いハードバップです。マイルス作とされるこの曲もいいノリです。

9. Chet Baker in New York (Riverside RLP12-281)

Johnny Griffin (ts) • Chet Baker (tp) •

Al Haig (p) • Paul Chambers (b) • Philly Joe Jones (ds) 1958.9.

A-1 Fair Weather (Golson) 6:55 produced by Orrin Keepnews

リバーサイドでのチェット・ベイカーのアルバムは色んな他流試合を敢行、パシフィック時代とは大きく変化し、ハードバップに寄り添う演奏も多々あります。ゴルソンの名曲を配したこのアルバムも、チェット自身の時代最先端への意気込みを強く感じます。

10. The Little Giant (Riverside RLP12-304)

Johnny Griffin (ts) • Wynton Kelly (p) •

Sam Jones (b) • Albert Heath (ds) 1959.4.4-5

A-3 Lonely One (B.Gonzalez) 4:08 produced by Orrin Keepnews

グリフィンのニックネームをタイトルにしたアルバム、顔のどアップが印象的です。他の曲は tp/tb が入りますが、敢えてワンホーンのこのトラックをお聞きください。

11. The Big Soul-Band (Riverside RLP331)

Johnny Griffin, Edwin Williams (ts) • Bob Bryant, Clark Terry (tp) •
Matthew Gee, Julian Priester (tb) • Pat Patrick (as) • Charles Davis (bs) •
Harold Mabern (p) • Bob Cranshaw (b) • Charlie Persip (ds) •
Norman Simmons (arranger) 1960.5.24

A-1 Wade in the Water (traditional) 3:44 produced by Orrin Keepnews

ノーマン・シモンズを音楽監督にした大編成アルバム。プロデューサーの大きな期待が
窺えます。グリフィンも期待に応えるように朗々としたソロを奏でています。

12. Johnny Griffin's Studio Jazz Party (Riverside RLP338)

Johnny Griffin (ts) • Dave Burns (tp) • Norman Simmons (p) •
Victor Sproles (b) • Ben Riley (ds) Babs Gonzales (announcer) 1960.9.27

B-1 Toe-Tappin' (D.Burns) 7:53 produced by Orrin Keepnews

2009年11月に担当した「私の愛するトランペッターたち」のデイブ・バーンズコーナ
ーでもご紹介、その節はB-2 You've Changedをおかけました。
数あるグリフィンのリーダーアルバムの中でも、人気の高い盤です。

13. Live! The Midnight Show (Prestige PR 7330)

Johnny Griffin, Eddie "Lockjaw" Davis (ts) • Junior Mance (p) •
Larry Gales (b) • Ben Riley (ds) 1961.1.6

B-1 Robbin's Nest (Illinois Jacquet, Sir Charles Thompson) 10:00

札幌我儘親爺の会メンバーでテナーマンのK.K.ちゃん。チャーリー・パーカーのコレク
ターとしても有名で、渾名は「頭パーカー」。

彼のライブでの十八番がサー・チャールズ・トンプソン作曲のこの曲、いつもノリノリ
です。5月2日彼が例会に持参したこのレコードは初めて見る盤で、本日のために
その場で強引に借り受けてきました。正直この二人のテナーバトルは食傷気味で
選定に苦労していたため、このスカットしたライブ演奏に飛びつきました。

(お蔭でプログラムが丁度10分伸びてしまいました…)

この1961.1.6のライブセッションは、都合4枚のアルバムに分散して発売されて
います。相当熱い夜だったようですね。

14. Change of Pace (Riverside RLP368)

Johnny Griffin (ts) ・

Larry Gales, Bill Lee (b) ・ Ben Reily (ds) 1961.2.7

A-1 Soft and Furry (Griffin) 3:38 produced by Orrin Keepnews

グリフィンのリーダーアルバムの中で、地味な印象の強いのは、フレンチ・ホルンのジュリアン・ワトキンスとの共演のせいでしょうか。アルバム冒頭のこの曲にホルンは参加していません。ジャケット写真もデスマスクのようで、やや不気味です。

15. The Kerry Dancers (Riverside RLP420)

Johnny Griffin (ts) ・ Barry Harris (p) ・

Ron Carter (b) ・ Ben Reily (ds) 1961.12.21

A-2 Black is the Color of My True Love's Hair (traditional) 6:11

B-3 Hash-A-Bye (Fran, Seelen, Thomas) 4:38 produced by Orrin Keepnews

両面全曲をじっくりとお聞かせしたい、非常に完成度の高いアルバムです。フォークソングを優しくかつ力強く奏でるテナーの音色は、録音の良さと相俟って私のターンテーブルに頻りに載る、まさに思い入れたっぷりな棺桶盤です。B面のスタンダードにもシビれますね。大久保に短期間あった著名なコレクターの、レオン・レビットの店で手に入れました。

16. Nice and Easy (Jazzland JLP67)

Johnny Griffin (ts) ・ Johnny Lytle (vib) ・

Bobby Timmons (p) ・ Sam Jones (b) ・ Louise Hayes (ds) 1962.1.29

A-2 Soul Time (B.Timmons) 4:33 produced by Orrin Keepnews

パイプのジョニー・リトル、数枚リーダーアルバムがありますが、端正な音色だけが目立ち、スイング感がイマイチだと思っています。このレコードも人気は余りなく、昨年ユニオンの餌箱でひっそりと私を待っていました。

(レジメ表紙のフォトグラファーに敬意を表しておかけします?)

17. The Magic Touch (Riverside RLP419)

Johnny Griffin (ts) • Jerome Richardson (ts,fl) • Blue Mitchel, Clark Terry,
Charlie Shavers (tp) • Jimmy Cleveland, Britt Woodman (tb) •
Julius Watkins (french horn) • Jerry Dodgion, Leo Wright (as) •
Tate Houston (bs) • Bill Evans (p) • Ron Carter (b) • Philly Joe Jones (ds)
Tadd Dameron (arranger, conductor, composer) 1962.3.9
A-1 On a Misty Night (T.Dameron) 2:45 produced by Orrin Keepnews

2010年5月・フィリー城さんのフィリー・ジョー・ジョーンズ特集でもかかった曲。
凄い面子を揃えてダメロンの世界を体現しているセッション、冒頭のこの曲では
グリフィンのソロが大きくフィーチャーされています。

(フィリーと云えば'77年ビル・エヴァンス札幌公演の後、リバーサイドのエヴリ
バディ・ディグスにエヴァンスとフィリーからのサインを貰いました。ジャケットデザ
インとまさにマッチするサインは、我が家の家宝！額に入れて飾ってあります)

18. Full House (Riverside RLP9434⇒concord OJC-106)

Johnny Griffin (ts) • Wes Montgomery (g) •
Wynton Kelly (p) • Paul Chambers (b) • Jimmy Cobb (ds) 1962.6.25
B-3 S. O. S. (W.Montgomery) 4:57 produced by Orrin Keepnews

今更能書きが不要なこの名盤、敢えて昨年再発されたOJC-Stereo盤をお聞かせ
します。2014年12月コンコルドから発売されたエヴァンスのヴィレツジヴァンガー
ドセッション4枚組、その音の素晴らしさに初発のモノ盤を超越した？とあちこちで
吹きまくって押売りをしましたが、このウエスのライブ盤もひょっとしてとは思
い、取り寄せてみた結果は大正解！ステレオのライブ感と楽器のクリアさは、ウ
エスの大家・当地ミントズカフェのSマスターご自慢・初発モノ盤と聴き比べても
優劣付け難く、また拙宅のフランス・モノ盤と比較してもこちらに軍配が上がり
ました。楽器個々の定位とマスターテープの高度な補正作業を経て、抜群の
ステレオ再生効果を挙げた復刻です。コンコルド再発、恐るべしの感を強くし
ました。但しジャケット複製はチープで、ここはユニオンを見習って欲しいです
ね。それとOJCのレコード番号も…今、コンコルドはリバーサイド・プレ
ステージ・コンテンポラリー・パブロ・ファンタジー等の版權を所有する一
大勢力です。この復刻シリーズは「Back to Black」のステッカーが付いて
通常の輸入盤市場で流通していますので、要チェックです。

19. Grab This! (Riverside RM437)

Johnny Griffin (ts) ・ Joe Pass (g) ・
Paul Bryant (org) ・ Jimmy Bond (b) ・ Doug Sides (ds) 1962.6.28
A-2 63 rd Street Theme (Griffin) 5:29 produced by Orrin Keepnews

珍しくオルガン・ギターとのコラボです。当時のファンキーブームに向けての企画でしょうか？ジョー・パスとの共演も珍しいですね。

20. Soul Groove (Atlantic 1431)

Johnny Griffin (ts) ・ Matthew Gee (tb) ・ Carlos “Patato” Valdes (conga)
Hank Jones (org) ・ Aaron Bell (b) ・ Art Taylor (ds) 1963.5.16
B-2 Poor Butterfly (Gordon, Hubbell) 4:55

レコード盤あるいはオーディオ関連の企画でよく紹介される、レコードの溝を拡大した図柄のジャケットです。溝の話題がお嫌いな我蘭堂さん、たしかジャズランドのガーランドにも同じような趣向のジャケット (Red’s Good Groove) がありましたね。
(皆さんがお嫌いなのは、レコードレーベルの溝=Deep Groove でした)

21. Do Nothing ‘Til You Hear From Me (Riverside RM462)

Johnny Griffin (ts) ・ Buddy Montgomery (p) ・
Monk Montgomery (b) ・ Art Taylor (ds) 1963
A-3 That’s All (Haymes, Brandt) 6:24 produced by Orrin Keepnews

モンゴメリーブラザーズと共演した、アーシーな一枚、バディ・モンゴメリーは曲によってバンプも演奏しています。
例のWAVE復刻シリーズでも発売されましたが、この復刻盤も人気で中古市場では品薄状態のため、結構なプレミアムが付いているようですね。

22. Night Lady (Phillips-Holland P 48071 L)

Johnny Griffin (ts) ・ Francy Boland (p) ・
Jimmy Woode (b) ・ Kenny Clarke (ds) 1964.2.13

B-1 Night Lady (F.Boland) 9:19

クラーク・ポーラン楽団の双頭リーダーをリズムセクションに揃えたワンホーン企画。
この時期のグリフィン、小編成の録音は圧倒的にライブ盤が多いのですが、このスタジオ録音も人気が高く、アメリカではジャケットのデザインを変えてエマーシーより発売されました。(ジャケットのセンスはこのオランダ盤の方が断然いいですけど)

23. The Man I Love (Polydor-England 583 734)

Johnny Griffin (ts) ・ Kenny Drew (p) ・
Niels-Henning Orsted Pedersen (b) ・ Albert Heath (ds) 1967.3.30-31

B-2 Sophisticated Lady (Ellington) 5:55

デンマーク・コペンハーゲンの伝説的ライブハウス、クラブ・モンマルトルでの録音。
リズムセクションは渡欧組の同志ドリュエとヒース、そして新進気鋭のペデルセンと云う当時の黄金トリオ。

24. Lady Heavy Bottom's Waltz (Vogue-Germany LDVS 17164)

Johnny Griffin (ts) ・ Sahib Shihab (bs) ・ Benny Bailey (tp) ・
Ake Persson (tb) ・ Francy Boland (p) ・ Jimmy Woode (b) ・
Kenny Clarke , Kenny Clare (ds) 1968.4.27

A-1 Foot Patting (G.Duvivier) 6:11

クラーク・ポーラン楽団在籍時代におけるグリフィンの演奏を、この1曲でなぞってください、との乱暴な選定になってしまいました。MPS等のレーベルに大量にあるグリフィンがソロをとるK・B楽団時代の録音 ⇒ All Smile / Faces / Latin kaleidoscope / Fellini712/ All Blues / More Blues / Sax No End 等16枚(殆ど持ってはいるのですが…)を差し置いて話ですから、ご批判は覚悟の上です。しかしこの曲、ダブルドラムスの迫力・ソリストの熱気がストレートに伝わって来て、聴くといつも元気の出るアルバムです。

25. Meeting (Jeton 600.6603)

Johnny Griffin (ts) ・ Monty Alexander (p) ・

Ray Brown (b) ・ Martin Drew (ds) 1980.4

A-1 Happy Talk (Rogers, Hammerstein) 6:03

昔、我蘭堂さんが例会に持参し、大好きになったレコード。如何にもヨーロッパの退廃的なムードが漂う？レコードです。元々2枚組 Sumerwind (後掲 No.32) として発売されたレコードから6曲をピックアップし、同じメンバーで81年に録音した3曲を加えたのがこのレコードです。

26. That Old Feeling (Columbia-Holland 83981)

Johnny Griffin (ts) ・ Rita Reys (vo) ・

Pim Jacobs (p) ・ Ruud Jacobs (b) ・ Peter Ypma (ds) 1979

B-1 That's Old Feeling (Brown, Fain) 3:39

本日のトリは大好きなリタ・ライスの歌伴を、グリフィンが静かに務めたこのレコード。数あるヴォーカルアルバムの中で私的にはベスト 10 に必ず入ると思う大傑作です。ただジャケットの写真だけはなんとかして欲しいのですが。(最近廉価版CDが発売、小さいジャケットになると、何となくこの写真も収まって見えます)

2008年1月、茶会記にてY.S.さんに続いて、第二回目のレコードコンサートを開催、その「オランダの歌姫たち」にてもA-1~2 Too Marvelous for Words と Fly Me to the Moon をおかけし、好評をいただきました。

Good Bye Mr. Orrin Keepnews. (1923.3.2 - 2015.3.1)

リバーサイドの創設者であり、プロデューサーとして数々の名作を創り出したキープニュース氏。マイルストーン・ファンタジー・ランドマーク等のレーベルで多くの逸材を送り出してきたモダンジャズの伴走者でした。特にリバーサイドに残された多くの傑作は、私のレコード棚の中でも光り輝いています。また、多くのインタビュー・執筆においても、ジャズメンへの深い愛情が溢れる語り口が印象に残っています。ジャズの歴史を創った巨人がまた一人世を去りました。92歳誕生日の前日にご逝去。合掌。

27. Continent Bleu (Orange-Blue OB 004 LP)

Johnny Griffin (ts) ・ Clementine (vo) ・ Patrice Galas (p) ・
Neils-Henning Orsted Pedersen (b) ・ Bobby Durham (ds) 1987.12.13-14
A-1 Un Apres-Midi a Paris (Afternoon in Paris) (M.Mitz, J.Lewis) 3:37

アニメンティーヌ＝天才バカボンのカバーアルバム等で、ジャパン・サブカルチャーの世界では有名なクレモンティーヌのデビュー作です。父親がこのレーベルのオーナーらしく、娘のために凄いメンバーを集めたものですね。ダブルジャケット内側に印刷されたカフェでの写真、彼女に寄り添うグリフィンのにやけた顔といったら…

28. Passion, No Future, But Love (B.B.Production BBLP00190)

Johnny Griffin (ts) ・ Brigitte Bader (vo) ・
Dado Moroni (p) ・ Luigi Trussardi (b) ・ Alvin Queen (ds) 1989.2.17
B-6 Prelude to a Kiss (Ellington) 4:08

スイスの歌手・ブリギッテ ベイダーの自費出版アルバム。
愛用の Jazz Discography Project グリフィン版にも搭載されていません。
その昔、新大久保ヴィンテージ・マインに随分入ったようです。
余り美しい声ではありませんが、ジャケットのセンスは抜群ですね。

29. Hot & Soul (Polydor-Germany 837 921-1)

Johnny Griffin (ts) ・ Victor Lazro (vo) ・ Philippe Decock (p) ・
Michel Hatzigeorgiou (b) ・ Richard Galliano (accordion) 1989
B-2 Quiet Now (J.Van Poll) 3:16

ヴィクター・ラズロ、名画「カサブランカ」の中でイングリッド・バーグマンの夫役＝ハンフリー・ボガードの恋敵であった、反ナチレジスタンス闘士の役名。この名前をすっかり芸名にした彼女、デビュー当時は結構売れていて、ナベサダとの共演もあります。グリフィンの参加はこの一曲のみ、最近ドイツのレコード店より取り寄せました。

30. Return of The Griffin (Galaxy GXY-5117)

Johnny Griffin (ts) ・ Ronnie Mathews (p) ・

Ray Drummond (b) ・ Keith Copeland (ds) 1978.10.17

A-1 Autumn Leaves (Kosma) 5:36 produced by Orrin Keepnews

リバーサイドの倒産後、マイルストーンレーベル等で仕事をしていたキープニュースが本格的にプロデューサーとして、グリフィンのアメリカでの復活をサポートしたのが、ファンタジー傘下のギャラクシーレーベル。ジャケットのセンスは？ですが、このハイスピード枯葉は迫力満点です。

31. Lookin' at Monk! (Jazzland JLP39)

Johnny Griffin, Eddie "Lockjaw" Davis (ts) ・

Junior Mance (p) ・ Larry Gales (b) ・ Ben Riley (ds) 1961.2.7

A-2 Well, You Needn't (Monk) 5:31 produced by Orrin Keepnews

モンク絡みを一枚もかけることが出来なかったので、せめてジャケットに写るモンクの写真と、モンク曲集であるこのアルバムを免罪符として？持参して来ました。

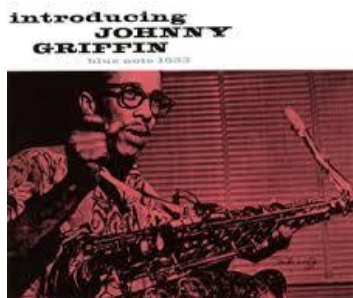
32. Summerwind (Jeton 100.3312)

Johnny Griffin (ts) ・ Monty Alexander (p) ・

Ray Brown (b) ・ Martin Drew (ds) 1980.4

D-2 Summerwind (Kaempfert) 5:55

No.25 の JETON 盤はなんとか入手したのですが、その後我蘭堂氏から拝借したこの2枚組アルバムは、影も形も見ただことありません。まあレコードを探す楽しみを残しておけということでしょうか？（ユニオン等で見つけられた方はぜひご一報を！）ディスコグラフィ上ではレイ・ブラウンのリーダーアルバムと云うことになっています。



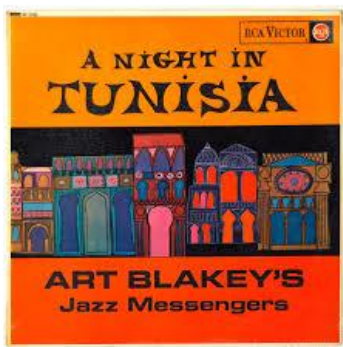
1



2



3



4



5



6



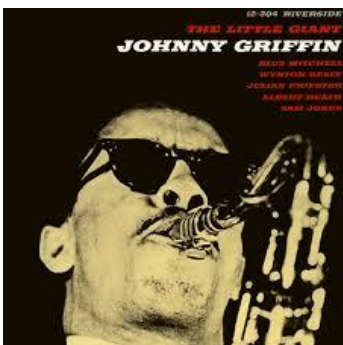
7



8



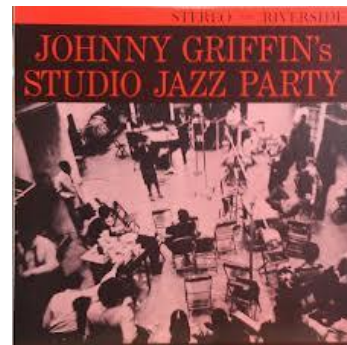
9



10



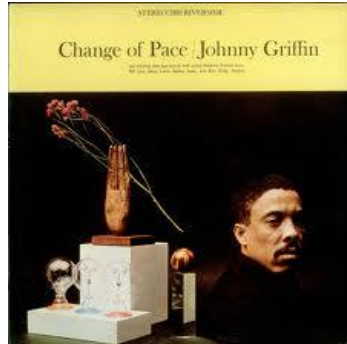
11



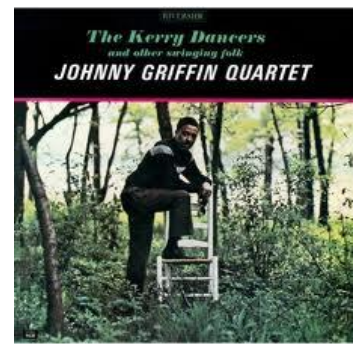
12



13



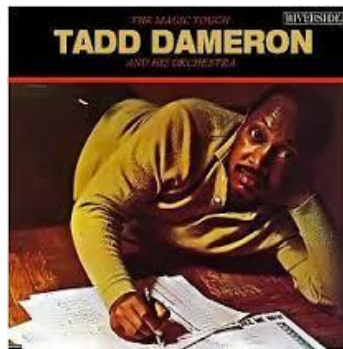
14



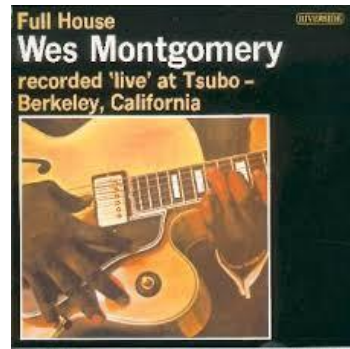
15



16



17



18



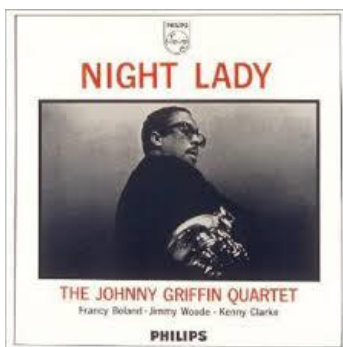
19



20



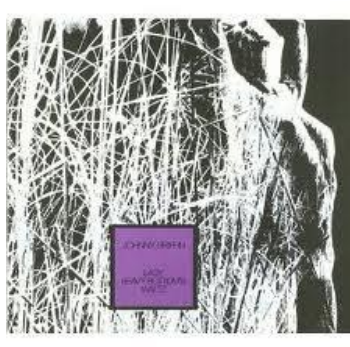
21



22



23



24



25



26

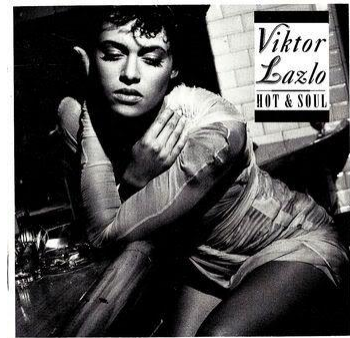
COFFEE BREAK



27



28



29



30



31



32 我蘭堂氏提供